

次期「TRACEシステム」機器の導入について

平成24年9月12日

当社では、駅構内留置コンテナの位置情報を把握する「TRACEシステム」を平成16年1月に導入し、全てのフォークリフトに機器を設置しましたが、本年10月より新機能を備えた次期「TRACEシステム」機器への取替を開始します。この新機能により、コンテナ荷役作業時の貨物事故を防止するほか、安全性、作業能率を高め、コンテナ輸送品質の一層の向上をはかります。

1. 次期「TRACEシステム」機器に備わっている新機能

(1) ドライブレコーダー機能

フォークリフトに録画カメラを取り付け、コンテナ荷役作業の状況を動画で保存するドライブレコーダーを搭載します。カメラは、フォーク爪元部とマスト上部の2ヶ所に装着します。

(トップリフターは、アーム付け根、コンテナ当たり面、アーム左右スプレッド部の4ヶ所に装着)

(2) 荷役作業中のコンテナ重量推測機能

作業中のコンテナ重量を推測し、モニタ画面に表示する機能を装備します。

(3) 貨車吊上げ脱線可能性の検知機能

フォークリフトの爪に設定値以上の重量負荷がかかった場合に、警告を発する機能を装備します。なお、設定値については導入後も継続的に検証して精度の向上に努めます。

(4) IT-FRENSシステムの情報をモニタで照会する機能

フォークリフトのオペレータ室に取り付けたモニタで列車の遅延情報を照会できるようにします。

2. 導入対象・スケジュール

当社が保有するフォークリフト・トップリフター(約530台、平成24年9月現在)を対象に、順次取替を行い、平成25年9月までに完了する予定です。